朝日遺跡出土品の保存修理

約2000年の間土の中にあった朝日遺跡の木製品は、出土時の形状を維持できるよう保存処理が施されています。しかし、処理から年月が経過しており、劣化した部分や破損した部分は今後の保存に支障をきたす恐れがあります。

愛知県では、国の補助を受けて朝日遺跡出土品の保存修理事業を行っています。

本展示では、昨年度保存修理を終えた木製品の一部を展示しています。

①クリーニング
（古い樹脂の除去）

②接合

③樹脂の充填

④補彩

⑤保存箱の制作

交通案内

- ●(株)東海交通事業城北線「尾張星の宮駅」から …… 徒歩 10分
- ●名鉄名古屋本線「新清洲駅」から …… 徒歩 30 分
- ●JR東海道本線「清洲駅」から …… 徒歩 35 分
- ●名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から …… 車で 約 5 分

朝日遺跡インターネット博物館
http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/bunka/asahi/

Facebook
あいち朝日遺跡　検索

愛知県清洲貝殻山貝塚資料館
〒452-0932 清須市朝日貝塚1　TEL052-409-1467
開館時間／午前9時30分～午後4時まで
休 館 日／月・火・水曜日・祝日・年末年始

企画展

朝日遺跡と弥生時代の農耕

平成29年

期 間　10/12㊍～11/26㊐

愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

朝日遺跡の農耕

縄文時代のおわりごろに北部九州にもたらされた水田稲作の技術は、弥生時代になると日本列島の東へと急速に広がっていきました。

朝日遺跡は、濃尾平野においていち早く米づくりを始めた集落のひとつです。発掘調査では、耕作に用いられた鋤や鍬、刈り取りに用いられた石庖丁などの収穫具、脱穀に用いられた杵と臼など、さまざまな農具が出土しています。その形は、現在まで使われている農具の祖形となっています。

鋤・鍬による耕作　　石器による収穫　　杵・臼による脱穀

■朝日遺跡から出土したさまざまな農具

レプリカ法による栽培植物の調査

レプリカ法は考古学において近年注目されている分析法のひとつです。

製作時に取り込まれた植物の種子や昆虫が、圧痕として土器の表面に残っていることがあります。この圧痕をシリコーン樹脂で型取りし、電子顕微鏡でその種類を同定します。

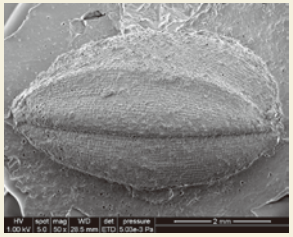
朝日遺跡など東海地方では、縄文時代晩期後半からアワ、キビなどの雑穀が現れ、弥生時代前期になるとイネが普及してくることがわかってきました。

レプリカの作成

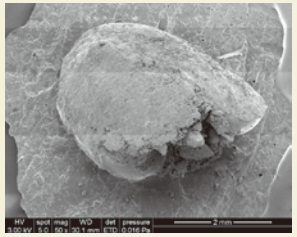
写しとられた圧痕

※写真：中山誠二氏提供

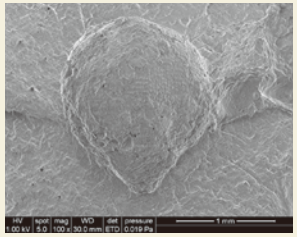
■検出された種子の圧痕



弥生時代前期蓋・イネ



弥生時代前期壺・イネ（玄米）



弥生時代中期前葉壺・アワ